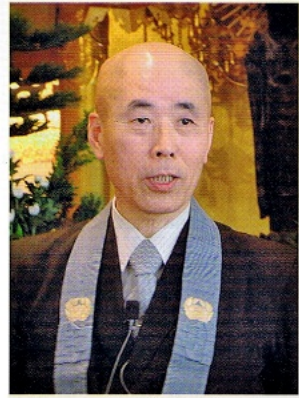




赤羽別院報 第28号
発行所 谷派 親宣寺
行宗大別院
真赤羽 眞行 眞行 眞行
浅野 伶
〒444-0427
愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
Tel・Fax (0563) 72-2308

御遠忌にお会いして



七年間だけで、一家三人連続の死は、今でもその七年があつたからこそ、日本の仏教は「自力聖道門」より「他力浄土門」へ、と一八〇度大転回することができたのです。

今年、私達の宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌の記念すべき年に当たります。私は今から五〇年前の大学生時代に、七〇〇回御遠忌にもお会いさせて頂きました。その時と今回との大きな違いは、参拝の方々の多くが鉄道で越えしなられたことで、京都駅から東本願寺まで、ご案内のお手伝いもさせて頂きました。御影堂内では「畫一枚に十人立つて、そのまゝお座り下さい」との言葉に、誰一人文句もいわずに座って念仏合掌された人々の姿が想起されます。

道を求めて

親鸞聖人は、九歳から二九歳までの二〇年間を越叡山延暦寺で、天台宗の厳しい修行と学問に打ちこまれました。聖人十九歳の時、奈良の法隆寺へ学問修行のため訪れた際、大阪の河内磯長にある聖徳太子の御廟に、三日間参籠されました。

六角堂に百ヶ日の参籠を企てられ、その答えを本尊の救世観音菩薩にもとめられました。すると九十五日目の晩、菩薩より行者宿願設女犯、我成玉女身被犯、一生之間能莊嚴、臨終引導生極楽の示現を告げられましたので、聖人は上記二つの夢告にみえる「極楽浄土」への道を、当時から心に説いていた東山吉水の法然上人を訪ね、またまた百ヶ日間の念仏の誓えを真剣に聴聞され、ついに「南無阿彌陀仏 往生の業 念仏為本」の他力浄土門を心よりありがたく頂かれたのであります。

命の広がり
最後に、我々を有難く尊い浄土門へと導いて下さった宗祖の親鸞聖人・そのお師匠様である法然上人・そして和國の教主(日本のお釈迦様)聖徳太子の偉大な三先達を、四行一首の和讃形式で讃仰した『良観和讃』という、世間ではあまり知られていない珍しいものを紹介しておきたいと思っております。

出遇い
親鸞聖人の先生は法然上人ですが、一一三三年の上人誕生から一二六三年の聖人入滅までは、実に一三〇年間もあられます。しかし、この師弟が親しく会ってお話された期間が、一一〇一〜一七〇七年のわずか

伝え続ける
先般の御遠忌法要を機に、京都市美術館で「親鸞展」が開催されました。出展物の中には、聖人が上人門下におられた頃の貴重な「真筆」が目をひきました。それは京都・西本願寺蔵の「親阿彌陀經註」です。これは単なる写経ではなく、その経巻の行間、欄外、紙背に至るまで、ぎっしりと諸先覚の経論釈を書き込んだり、若き頃の聖人がいかに師上人のお念仏の教えを、全身全霊で受けとめられたかが、如実に知られる尊い宝物にほかなりません。

秋彼岸会
9月22日(木) 午後1時
講師 第8組 宿禰寺 織田 慶雄師
9月23日(金) 午後1時
講師 第12組 了願寺 藤谷 信雄師
9月24日(土) 午後1時
講師 第12組 本誓寺 足利 憲師

殉教記念法要

石川台嶺師を偲ぶ一日

「宗風にあるまじきこと」

明治4年 大浜騒動

明治初年、維新政府により発せられた「神仏判然令」には「鹿嶋殿」に対し、同年3月青年僧で組織される三河護法会の有志三十数名が血闘し、熱心な三河真宗門徒と共に「宗風にあるまじきこと」と敢然と立ち上がり、神道風教化を強力に押し進める菊間藩を糾弾すべく大浜村(碧南市)に向った。そして、談判の過程で役人一人を殺害した事件「大浜騒動」がおこった。

この事件の中心人物として、安城市小川町の蓮泉寺新発意・石川台嶺師は斬首刑、殺害犯とされる榎原喜代七は絞首刑に処せられ、血闘僧33名は懲役刑により投獄され、この内5人が獄死した。台嶺師はこのとき29才であった。

鹿嶋に蜂起した事件は、福井県や富山県をはじめ全国各地で起こったが、大浜騒動を契機として排仏運動は沈静化し、政府の宗教政策を大きく転換させることとなったのである。即ち、台嶺師以下の勇気ある行動が、宗旨を問わず今日の日本仏教の礎となったといえる。

今日では、毎年6月台嶺師をはじめ、師と行動を共にした僧侶や真宗門徒を顕彰し追悼する法要が殉教記念会の主催により、西尾市と安城市において営まれている。



石川台嶺師の肖像画

蓮泉寺 墓前法要

梅雨の晴れ間の好天に恵まれた6月6日午前10時30分より、石川台嶺師のお寺である安城市小川町の蓮泉寺では、寺に隣接して建立された「護法有志墓」の前で、出雲路岡崎教務所長の調声により、第16組の僧侶や熱心な門徒さんのお詣りのもとに「追平法要」が営まれた。



護法有志墓前法要

この墓には、台嶺師をはじめとして血闘した42名の僧侶や門信徒の名前が刻まれており、この隣には、師がご令室に宛てて認められた辞世の偈「露の身は、ここかたしにてきゆるとも、心はおなじ西のかのきし」を刻む石碑が添えられている。

西尾市葵町 殉教記念碑参拝

台嶺師は、旧西尾城の獄舎において処刑されたが、50回忌を迎えた頃「台嶺師処刑の地に記念碑を！」の声があがり、正念寺・平野内玄師、聖蓮寺・泉慧藏師を中心として建碑運動が展開され、大正13年に正に処刑の地である現在地(西尾市葵町)において除幕式を迎えたのである。

碑の正面には、彫刻(向仏上人による題額「護法法城」と事件の経緯、裏面には台嶺師をはじめ43名の名前が「護法殉難者名」として刻まれている。



殉教記念碑前参拝

赤羽別院 殉教記念法要

この日は、殉教記念会が地元町内の方々の協力を得て碑前参拝の法要を営み、多数の方々に参加いただいた。

この法要は、殉教記念会の主催により毎年行われており、今年で86回を数える。法要には、50名を超す僧侶が出仕・参拝等にかける。



小山師の法話

なご、大勢の宗教区の門信徒と併せて岡崎教区第4組から30余名の方々の参拝があり、満堂の盛会であった。

記念講演には、本證寺前住職・小山正文師をお迎えし、親鸞聖人の生涯を主にお話し戴いた(要旨は第一面に)。

今日では、ややもすると風化しつつある真宗の宗風を思い出さし、台嶺師をはじめとする法義相続の精神を思い起こす一日となった。



志貴野製瓦場 記念碑法要

なお、この日は午前9時30分から、西尾市志貴野の志貴野製瓦場記念碑「前」において、同碑保存会の主催による志貴野製瓦場記念碑法要が大勢の方々の参拝のもとにお勤めされた。

この法要は、明治28年の本廟再建の折に御影堂をはじめとして、合計28万余枚もの瓦を一手に引き受け、志貴野製瓦場に携わった人々、即ち、本廟・東本願寺の護持と真宗の法義相続に励んだ、三河門徒の篤い思いに込める顕彰法要である。

(石川記)



志貴野製瓦場記念碑法要

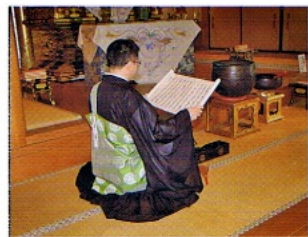
夏の御文を厳修

蝉の鳴き声が聞こえ、夏の到来を感じる7月15日、夏の御文拝読法要が厳修された。

夏の御文とは、明応7(1498)年に当時84歳であった蓮如上人が筆述されたもので、平生の法要中に読まれる五帖御文とは別として、夏中に拝読される四通の御文のことである。

夏の御文拝読は、本廟においても昭和38年頃まで、夏の伝統行事として勤められており、当別院でも一昨年この法要を50年ぶりに復活させた。

本年は、第13組教養寺の間島亭住職に、この第三通目の拝読を託して法話を戴いた。



間島師による御文拝読

師の、仏法を自身の問題としてとらえていくというお話をお聞き、聴聞に訪れた人々が、真宗門徒として生活する姿というものを、改めて確認する法要となった。

(櫻部記)

早期復興祈願・がんばろう日本!

門徒会研修会

残暑の厳しい8月25日午後、第3回門徒会研修会が三重教区・西恩寺の池田真師をお迎えし、門徒会員を中心に74名が参加して開催された。

「後を導き、先を尋ねて！無宗教をこえて」と題し、仏教離れ、寺離れが進むなか、人々に伝えていくべきかお聞かせ戴いた。そのなかで、解決のない迷いの世界(生死海)に合せて頂く時、先達や親さまにお尋ねできることは一番の幸であり、反対に私

渡辺師・池田師をお迎えして 暁天講座開催

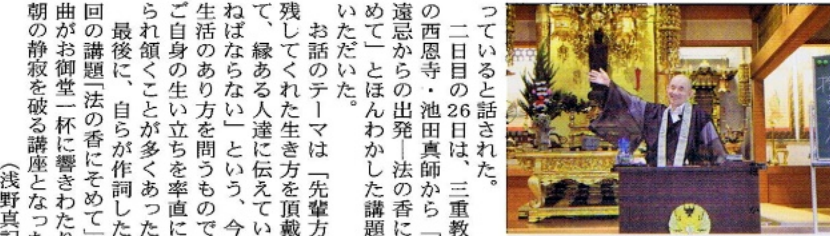
別院では、夏の行事の最後をかざり、8月25日・26日の両日暁天講座が開催された。早朝6時から涼しい時間帯であり、参加者は二日間とも60名を超す大勢の方々が爽やかな顔で参集された。

初日は、豊田市・守綱寺住職の渡邊晃純師より、講題「『凡夫』はすなわちわれらなり」のお話をいただいた。

御遠慮が終った「宗祖としての親鸞聖人に会う」このことができたのかを考えたとき、今回のテーマが浮かんだと話され「われら」とはいかなる者かを頭からかたしてくださった。現代人は自分の外にあるものはよく知っている。世界で何が起っているかもよく知っている。しかし、不思議なことには家族や隣人が何を思っているのか解らない。

更に、自分のことなのに自分のことがわからないという現象がおきている。

他と比較することでしか自分を知らることができず、効率・生産性第一主義になり、自分自身に問を立てられなくな



渡邊師の講話

二日目の26日は、三重教区の西恩寺・池田真師から「御遠慮からの出発」法の香にそめて「とほんわかした講話をいただいた。

お話のテーマは「先輩方が残してくれた生き方を頂戴して、縁ある人達に伝えていかねばならない」という、今の生活のあり方を問うもので、ご自身の立ちを率直に語られ聞くことが多くあった。

最後に、自らが作詞した今回の講題「法の香にそめて」の曲がお御堂一杯に響きわたる、朝の静寂を破る講座となった。

(浅野真記)



池田師の講話

の我欲が本尊になっていけば幸せはない。これが無宗教と語された。

話を超えた地域の交流の場として、組門徒会員が抱えている課題を共有し、各組や各所属寺院の活性化を図るべき研修会として、今後の継続と一層の充実が望まれる。

(浅野真記)

狐野秀存師 真宗講座開催

第13組 教化委員会

第13組主催による夏期真宗講座が7月26日・27日の両日赤羽別院・明榮寺を会場に開催されました。

この講座は50年以上続く組の伝統行事であり、暑い夏のひと時、互いに汗をかきながら身を運び、教えに学ぶことが真宗門徒の姿であり、先人から受け継いだ念仏生活であります。

本年は、京都・大谷専修学院院长の狐野秀存師をお迎えし、初日は「私達の真宗」と題し、宗旨・宗派や教義などの基礎知識の確かめを中心に、ご自身の体験談を交えながら、おだやかな口調で語られました。二日目は、宗祖親鸞聖人の



狐野師の講話

さらわず、みすてず」と如来の心を端的に表現されたこと。信国師の力強い生きざまに圧倒されたことなどを、お聖教に照らしながら熱く語っていただきました。

また、福井県の念仏者・竹部勝之進さんの詩「コトワタシと一緒に朗読したり、質疑に対していてもたもたないに添えていただき、充実した講座でありました。途中、先生が「今、真宗念仏の危機であります。どうか念仏相統の声を絶やさず、念仏申して下さい。ナムアミダブツ」と叫ばれたことが印象的でありました。



(間島記)

門徒の声

私たちがのお寺

私たちのお寺・浄徳寺には、地区ごとにご門徒さんとご連絡やお世話をされる役員、同朋会青年部、文殊の会の皆さんがいて、寺の管理や行事の際のお手伝いをしている。

お元日の修正会、3月には永代供養塔の法要を併せて彼岸法要をお勤めしている。4月には花まつりを行い、お参りの後で焼きそばが振舞われ子供達に親しまれている。

親元へ帰るといふこと。浄徳寺は、毎年研修旅行を行っており、本年は宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌にお参りした。本朝参拝の前日に比較

第3回 俳句川柳募集

3回目を迎え、今回は俳句と併せて川柳を募集します。

募集要領

- 一、応募資格 中学生以上の方
- 一、募集部門 両部門に応募可
- (1)俳句の部
- (2)川柳の部
- 一、審査の方法
- 各部門に次の二部に分けて審査します。
- (1)中学・高校の部
- (2)一般の部
- 一、発表 9月30日
- 一、発表 10月26日
- 一、その他
- ・応募用紙は別院に
- ・お尋ねは0563-1721
- ・2308まで・豪華な賞品を用意して多数のご応募をお待ちしています。

山延庵寺において研修をし、私は少し親鸞さんのお弟子になったような気分がした。8月の盆法会には、青年部のお取持ちでかき氷の接待があり、境内では親子で花火を楽しむ光景があちこちで見られ、賑やかな法会となる。11月には、寺にとっても大事な行事である報恩講・永代経法要が、文殊の会の協力によりお勤めされている。一年を通して、お寺に足を運ばれる皆さんが気持ちよくお参りいただくため、普段から境内の清掃に努めている。「門徒の皆さんの心ふるさととして、朝な夕なに心の安らぎと幸福感を覚えるお寺にするため、住職と相談しながら役員をはじめ皆が力を合わせていかなければならない。」

第12組 浄徳寺門徒 岡田 正

第4組 門徒会来院

第4組門徒会 殉教記念法要参拝

梅雨の晴れ間の6月6日、第4組(豊橋・豊川・新城)門徒会一行31名が当地を訪ねられました。

一行は、志貴野製瓦場の碑前顕彰法要にお詣りされた後、当別院で厳修された石川台鎮師殉教記念法要では、安城市本證寺前住職・小山正文師の法話を熱心に聴聞されました。翌日には、西三河で真宗に縁りの深い西尾市の安楽

第31組門徒会 門徒会研修で来院

寺、碧南市の蓮成寺・西方寺・応仁寺にお詣りになり、応仁寺に隣接する菖蒲園では満開の花菖蒲を満喫して帰途につかれました。

同じ梅雨晴れの6月11日、静岡県より第31組(静岡別院崇敬区・掛川地区)門徒会一行49名をお迎えした。同門徒会では研修事業の一環として、いち早く教化センターを設立し、活発な活動を展開している当別院

を研修先に選んだとの事で、大変名譽なことであった。お御堂内で、浅野輪番より赤羽別院の沿革・地域教化センター設立の経過、組織や活動の状況等の説明があり「次第に盛り上がるスタツフの熱情により、昨年10月に御門首夫妻をお迎えし、御親修により宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌お待ち受け法要を円成したことは、皆が心を一つにして取組んだ結果」と話された。

この後、宗祖親鸞聖人の生いたちから29才での法然



研修会のようす

第4回 子ども絵画展

第4回赤羽御坊子ども絵画展には、テーマ「花」の部及び自由の部を合わせて、総数82点のご応募をいただきました。厳正な審査を行ったうえで、金賞をはじめ優秀な作品をお御堂内に展示しました。

8月26日に、このなかから金賞受賞者全16名・15名の内11名が出席して賞状に記念の品を添えて贈られました。子ども達の笑顔が印象に残る表彰式でした。

金賞受賞者(出席者)

- 伴 昊偉くん
- 山田 純空さん
- 伴 ゆきさん
- 真砂 達也くん
- 松井 優菜さん
- 水越 萌さん
- 樹神莊 一郎くん
- 石崎奈津美さん
- 柘植 桃子さん
- 鈴木美智子さん

(順不同)

ゴボちゃん HOUSEN



御坊俳壇

大勢の中の一や若葉寺連日の鼓笛練習若葉会業輪や遠分篤居伊勢に向く一輪の大きき咲けるクレマチス聖五月色紙の言葉「生き抜こう」退院の友を見舞ひぬ立夏の日目の前に展げる里の神若葉点滴に命預けて若葉風佐保姫の行手を獲ひ大津波唄りて命を惜しむ菖蒲風呂



受賞者の皆さん

55th Anniversary 笑顔がいっぱい knt!

近畿日本ツーリスト株式会社 岡崎支店
岡崎市明大寺町川端20-2
TEL: 0564-23-3121
FAX: 0564-23-5838
E-mail: okazaki@or.knt.co.jp

こころをカタチに残したい 永遠の絆づくりのお手伝い。

仙台屋仏壇堂

仏壇・仏具・墓石

刈谷本店 (0566)24-7841
阿久比店 (0569)48-3733
半田店 (0569)24-8550
東海店 (052)689-7311
家具調仏壇 想 (052)709-2051
URL http://www.sendaiya.co.jp

御本山 御用達

営業品目 法衣・打敷・御幕・念珠・貸種児衣裳
御本山へ参拝、納骨の際には是非お立ち寄りください。

(株) 平安法衣店

〒600-8153
京都市下京区東本願寺大門前
TEL (075) 351-3681 (代)
FAX (075) 351-5563

夏休み子ども特集!

学校の夏休みを利用して、別院・崇敬区内の寺院では子ども会やおつとめ会といった、子どもを対象とした行事が数多く行われており、その内容は様々ですが、ここでは各組・各寺院の工夫をこらした多彩な催しに取組んでいます。

そこで、今回は「夏休み子ども特集」と題して、その中よりいくつかの様子を紹介いたします。

なつやすみ子ども会

第11組 唯法寺

去る8月2・3日の両日、第11組・唯法寺ではなつやすみ子ども会も合同二〇一〇一が行われました。

この行事は今年で26回を迎える夏の恒例行事で、布団や寝袋の入った大きな荷物を抱えた子どもたち35名が集まり、お勤めの練習や作品作りなど様々な体験をしながらお寺で一泊するものです。

当日、集まった子どもたちは若院のリードで5班に分かれて行動を共にしましたが、学校はバラバラでもそこは子どもたちの



張りぼての白象製作

白象の他にも誕生仏が立派に完成しました。大まかなタイムスケジュールを決めてはありますが、お勤め以外は常に同じことをしながらはならないわけではなく、夕食のカレー作りを手伝う子、サッカー遊びやハンカチ落とし等境内の奥ちこちで好きな遊びに興じる子どもたちもたくさん見られました。

その昔、お寺の境内が一番の遊び場だったといわれる姿を思い起こさせる子どもも合同でした。(平野記)

子ども会

第13組 慶徳寺

猛暑の続く8月16・17日の両日にわたり、第13組・慶徳寺では子ども会が開催された。

この会は、毎年8月上旬にお勤めされる報恩講に助音として参加した子供が集って催され、今年は27名が参加した。

行事の内容は、子供達自身で考えて決めており、今回は動行に続いて、宝探し・ビンゴゲーム・肝試しや火花などを全員で楽しんだ後、お寺での合宿となった。

上級生が幼い子たちをリードし、昔ながらの遊びを楽しみ、動行では、全員が真剣な表情で正座し、大きな声で正信偈を称える姿はとて微笑ましく、全ての面でとても礼儀正しい子供達であった。



全員がキッチリ正座

小学生の助音講 別院

赤羽別院では、昨年10月2・3・4日の三日間、子供助音講の練習会が開催された。

三日間共、くらし部の皆さんの指導により正信偈の練習に励み、3歳の幼児が念珠を手に小学生に交り参加したのが印象的であった。

この後には、子供さん向けのアニメーションがあり、二日目は、豊田市在住の宇野政博氏により巧みな腹話術が披露され、けんちゃんなる人形を相手にしたコミカルな言葉のやりとりで神経を集中させて聞き入っていた。

三日目は、境内において流しそうめんのおサービスがあり、半割にした

第8組 少年少女の集い

好天に恵まれた8月3日、第8組では教化活動の一環として「少年少女の集い」を実施した。

当日は、23名の子どもと引率者を含む一行41名がバスを利用して、長野県木曾郡上松町の赤沢自然休養林へと向かった。

往路の車中では、宿縁寺・織田住職より、お数珠のいわれなどについて、小さい子どもにもよく解るようにやさしくお話しいただいた後、ビンゴゲームやDVDの観賞などで、あちこちから歌声があがる賑やかな時を過ごした。

現地に着くと早速魚のつかみ捕りを行い、子どもたちは全員川に入り素手でお魚を捕って楽しんでいました。

そうにはしゃいでいた、捕えた魚はすぐに焼いて、バーベキューの昼食として美味しくいただきました。

命の善さと、食事ができる喜びの話しながらの楽しい昼食会となった。



魚のつかみ捕りに夢中

食後の自由時間では、赤沢名物のトロツコ列車による森林クルーズで、片道1料の道程を15分かけて進み、復路はトロツコを降りて遊歩道を散策しながらの徒歩組もみられた。また、川での遊泳組も多数あり、何れも遊泳も飛び込む姿が見られる一方で、工作を楽しむ子どもの姿もあった。

帰りの車中では、満足感に満ちあふれた笑顔が絶えることのない少年少女の集いとなった。(本多記)

丸竹を流れるそうめんに、皆が喜々として舌鼓を打つ光景がみられた。

この正信偈のおさらひの成果は、秋季彼岸会の二日目9月23日(金)の午後の座において、他の崇敬寺院の子供さんと一緒に助音講としてお勤めに加わる予定です。(石川記)

◆ 仏事 ◆

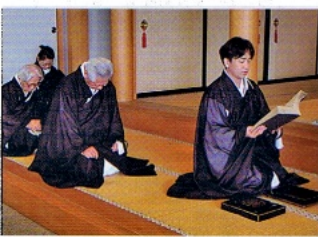
法要や常斎(毎月のおまじり)の折、御文が拝読されます。御文を拝読するときの作法を教えてください。

◆ 仏事 ◆

御文をお書きくださった進如上人は、御文を通して現代社会において、私達が「信心」即ち「南無阿彌陀仏のお念仏」の生活をおくることを願っておられます。

まずは、御文を静かに最後まで拝読することが大切です。念珠を左手に持ち、軽く頭を下げて、我が身のあり方を御文の中に聞いていく心がまえで拝読しましょう。

御文の途中で、お茶の仕度などで座席を立つことや声を



正しい作法

出してはいけません。また、朝夕のおつとめは、できるだけ家族そろって行い「正信偈」と「和讃」を読み、最後には御文の五帖を繰り読みしたいものです。(小栗記)

赤羽地域教化センターウェブサイト

http://www.katch.ne.jp/~akabane_betuin/

仏事で困ったら…

携帯からのアクセスはQRコードから

お寺の法語 掲示板をみてみよう

赤羽別院親宣寺 地域総代会発足

休眠状態であった地域総代会は、その名称を「赤羽別院親宣寺地域総代会」と改めて再発足することとなり、去る7月20日の院議においてその規約が承認された。

崇敬区の各寺院より選任された総代が、自ら開法をしながら手次寺院共々赤羽別院の護持発展を図ることを目的として、別院等が取り組む事業やその内容等について伝達するパイプ役としてご門徒さんにいただくことにより、一人でも多くの方々がお寺や別院へお詣り下

編 集 室

本山の「安居」に代表されるように、この夏の暑い期間中には別院をはじめ各組・各寺院において様々な講座が開かれています。

「安居」は、釈尊が彼の地の雨期三ヶ月間、洪水・毒蛇・猛獣など雨の害が仏弟子に及ぶのを防ぐべく、一定の場所に集めて開法・研鑽させた故事に由来する言葉です。

崇敬区内においても、夏期講座・暁天講座・子どもの集り等多くの行事が行われたが、お知らせできなかったのはその内の一部分であります。

恒常的な紙面不足がありますが、情報収集の不足・遅延等が今後の検討課題として残されています。

このように新聞に掲載できなかった情報でも、別院広報のブログを開いたいただければ載っているものもあります。ブログも是非ご覧になって下さい。

お寺の掲示板

因朋社会

深きいのちにゆさめ

なきいのちに生きる

第10組 蓮伝寺

さることを願うものであり、今後組織を確立し、定期的な研修会を開催します。本山や別院に限らず他組・他寺院との情報交換の場として活用いただければ幸いです。関係各位の格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

輪番 浅野 裕



地域総代会